


1,219名を超えるユーザー登録：

環境省 6月28日



もしものための熱中症アプリで備え万全に！

日本救急医学会監修の熱中症応急処置指導フリーアプリです。救急病院までの道順も表示。練習モードで備えを万全に。

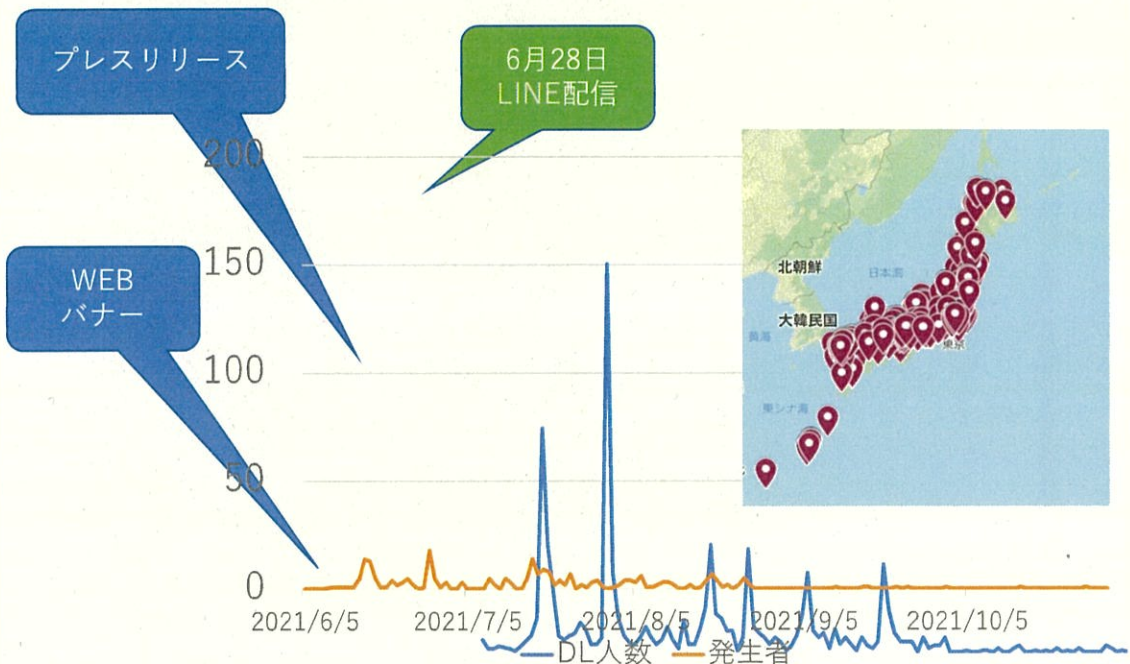
ダウンロードはこちらから！

環境省

日本救急医学会では、熱中症予防啓発の一環として、スマートフォンを持っている人なら誰でも熱中症の重症度や応急処置などを知ることができる「熱中症診断支援アプリ」を開発しました。

このアプリは具合が悪くなった人の性別や年齢、症状などを入力すると、熱中症の重症度の評価とそれに応じた応急処置、近隣の病院までの道順などを知ることができます。

医療従事者のみならず、スポーツクラブのコーチ、養護教諭の方、介護施設職員の方など、幅広くご利用していただければ幸いです。



環境省と連携したLINE配信：効果的普及方法

- DL数：1046件
- デモンストレーション：862件
- 実際に使用された件数：245名 平均41.7 ± 20.7歳

2021年6月28日-10月31日



障がい者の定義と関連する質問項目

①障がい者手帳あるいはそれに準じるものを持っているか？

(身体障がいでは手足の動きの障害：5例、2.0%)

(身体障がい以外の手帳を持っている：9例、3.6%)

計14例 (5.7%)

②発症前の身体症状なし VS あり

⇒mRS0：204例 vs mRS1-5: 41例 (20.1%)

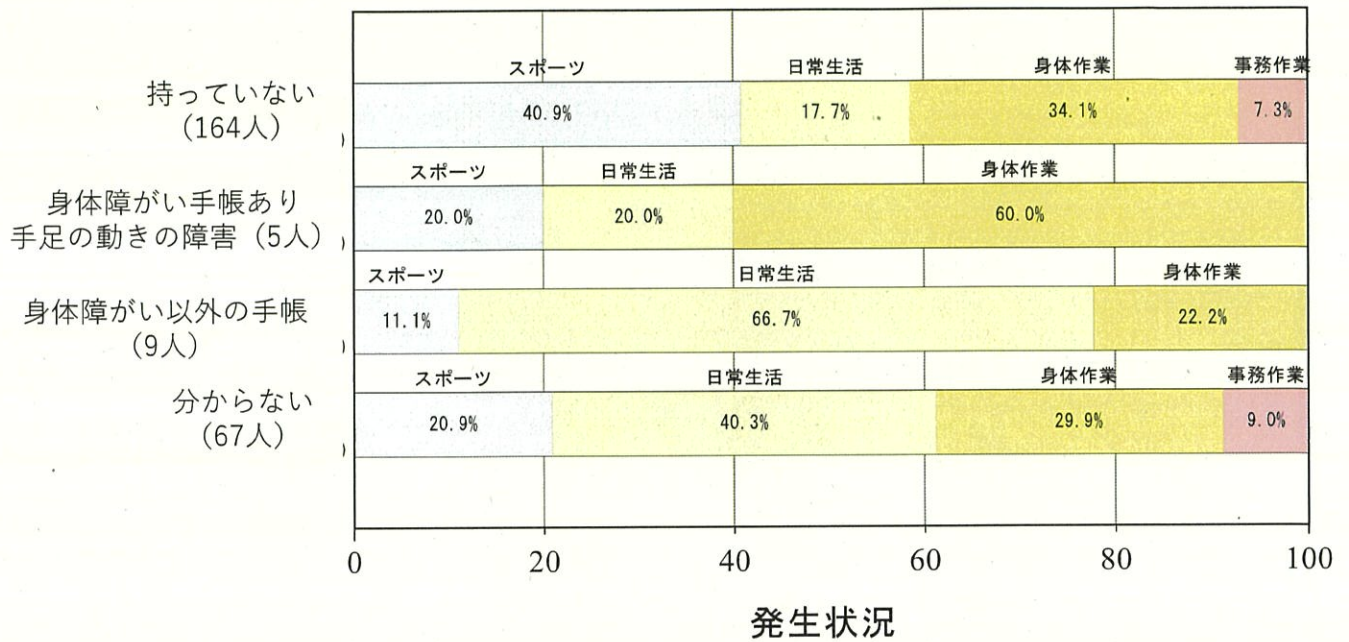
③日常生活に制限なし VS あり

⇒mRS0-2: 233例 vs mRS3-5：12例 (4.8%)

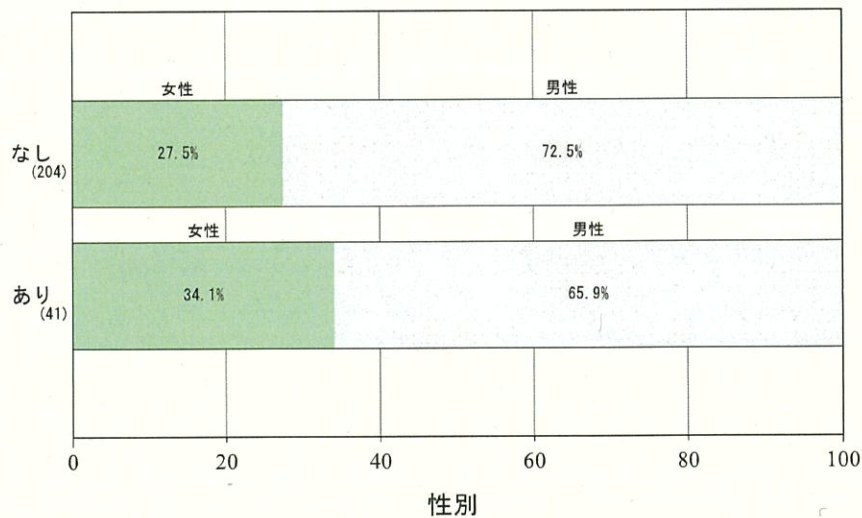
発症前の普段のADLの確認

- 動きに不自由なく、活動に全く制限がない
(mRS0相当)：204
- 症状はあるが日常生活に制限はなく、道具も必要ない
(mRS1相当)：19
- 症状はあるが日常生活に制限はない、杖などの道具を使用することがある
(mRS1相当)：3
- 活動の一部に制限はあるが、身の回りのことは人の介助なしに行える
(mRS2相当)：7
- 外出に人の介助を必要とするが、移動には介助を必要としない
(mRS3相当)：4
- 移動の一部に人の介助や車椅子を利用する
(mRS4相当)：6
- ほとんど外出できない、寝たきり
(mRS5相当)：2

手帳を持っている人、いない人と発症様式

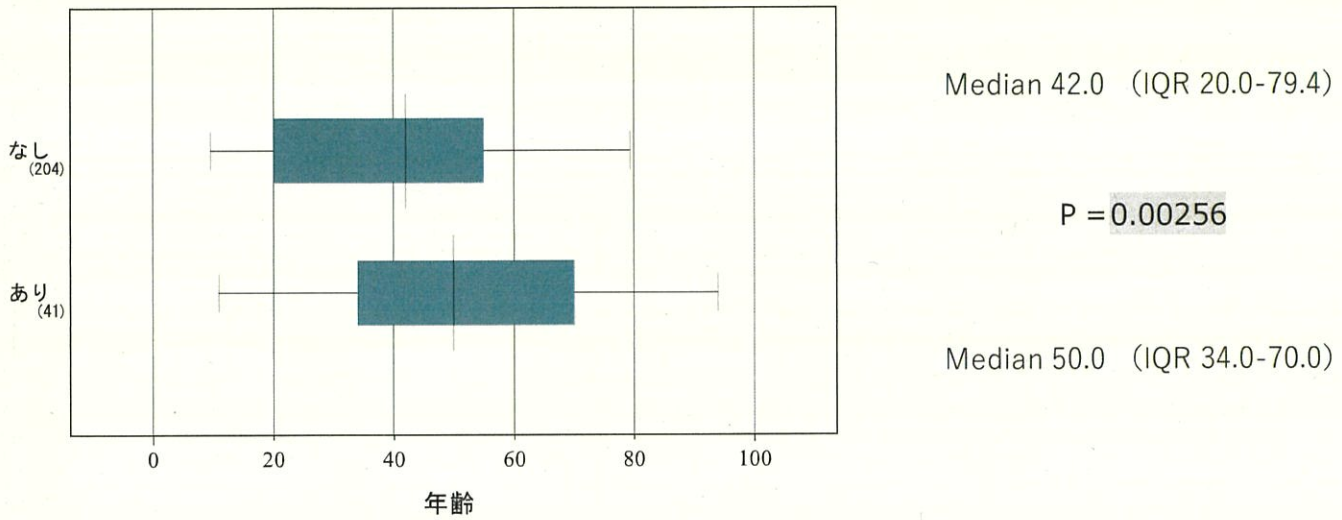


発症前症状なし VS あり の比較
 ⇒ mRS0 : 204例 vs mRS1-5: 41例

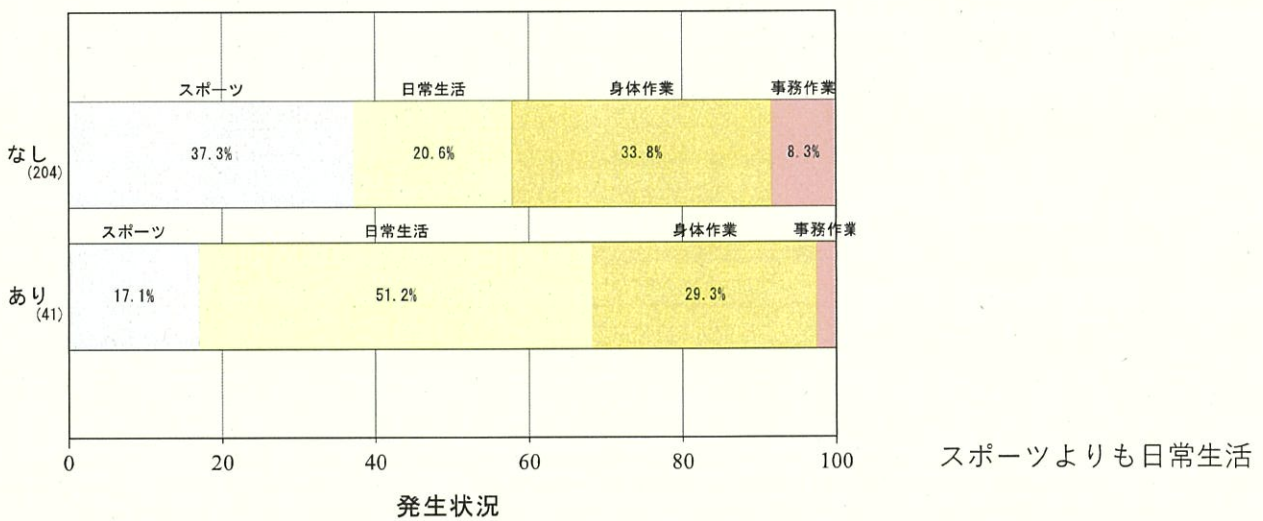


男女の有意差なし

発症前症状なし VS あり の比較
 ⇒mRS0：204例 vs mRS1-5: 41例

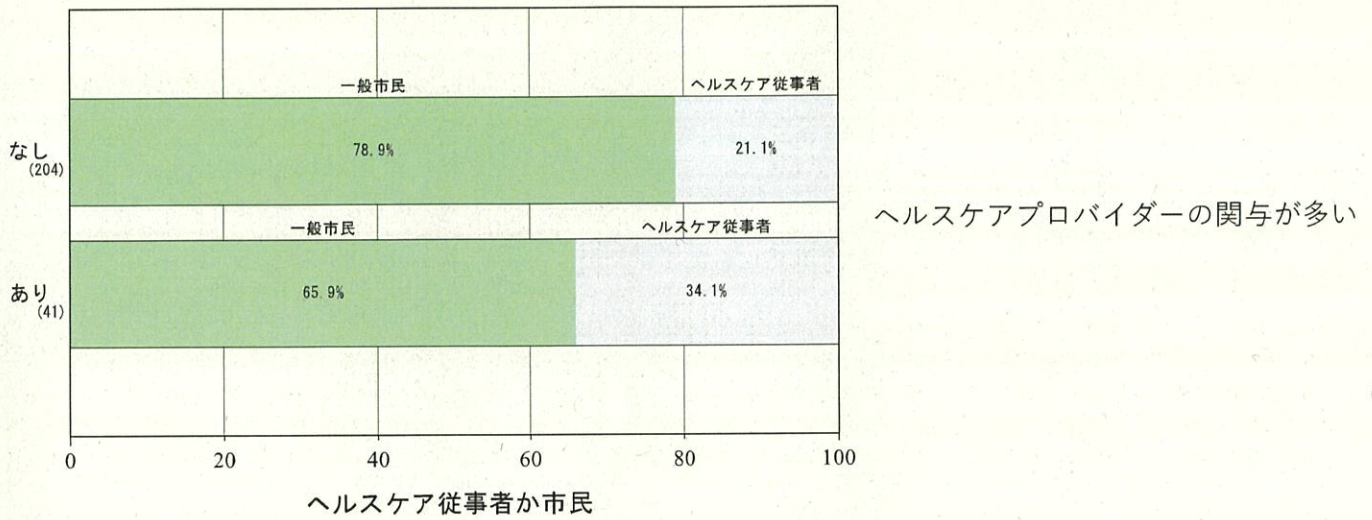


発症前症状なし VS あり の比較
 ⇒mRS0：204例 vs mRS1-5: 41例



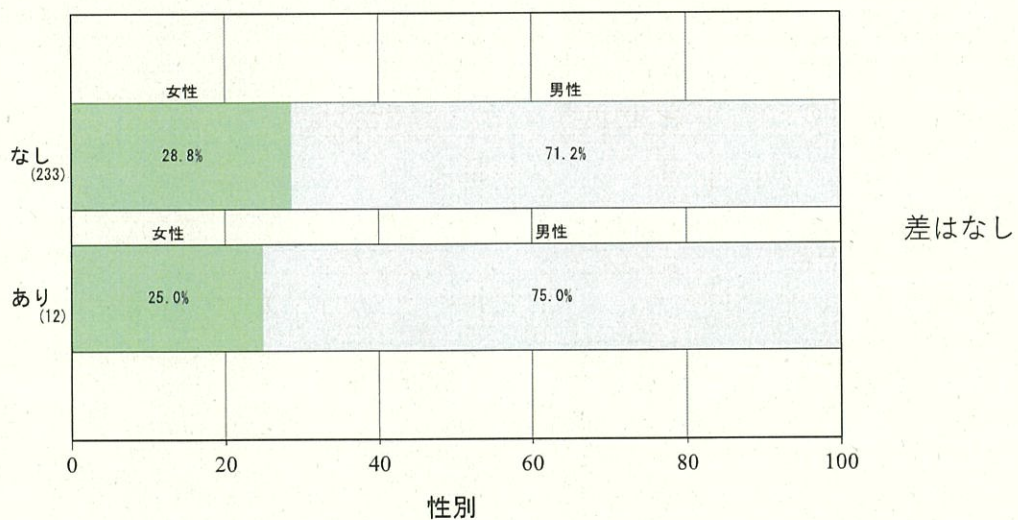
発症前症状なし VS あり の比較

⇒ mRS0 : 204例 vs mRS1-5: 41例

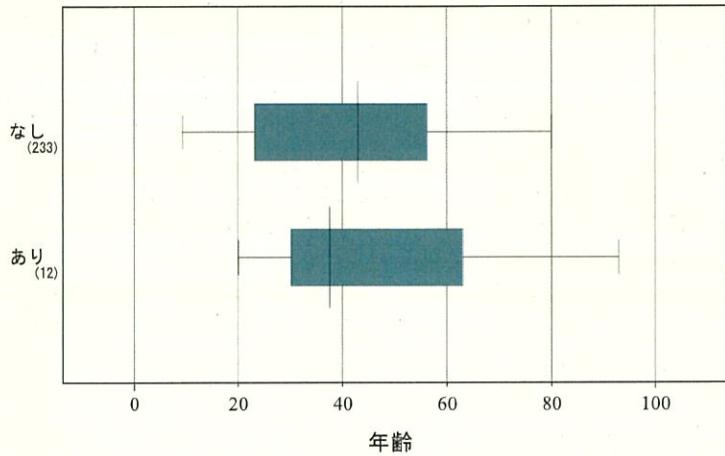


日常生活に制限なし VS あり

⇒ mRS0-2: 233例 vs mRS3-5: 12例



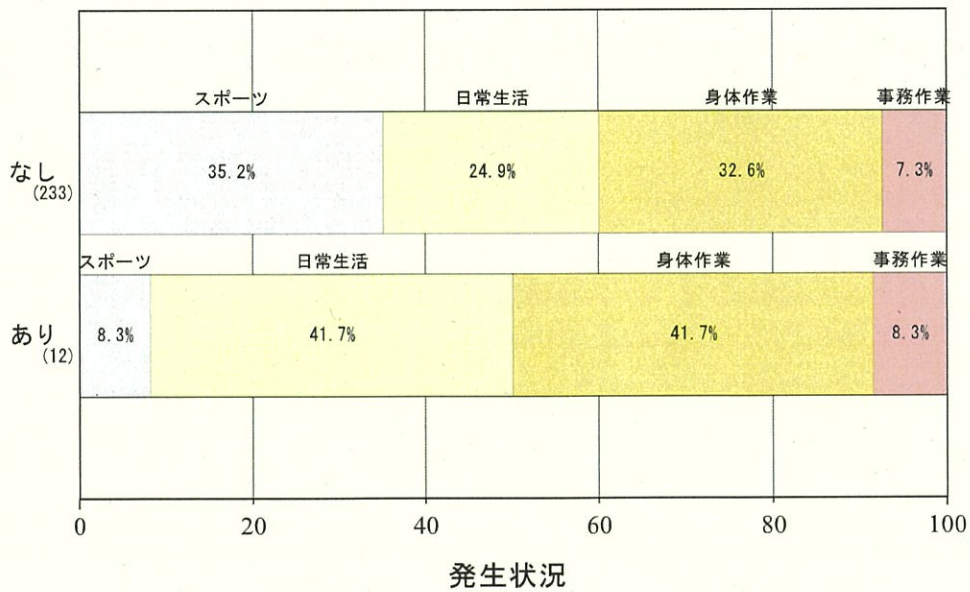
日常生活に制限なし VS あり
 ⇒ mRS0-2: 233例 vs mRS3-5 : 12例



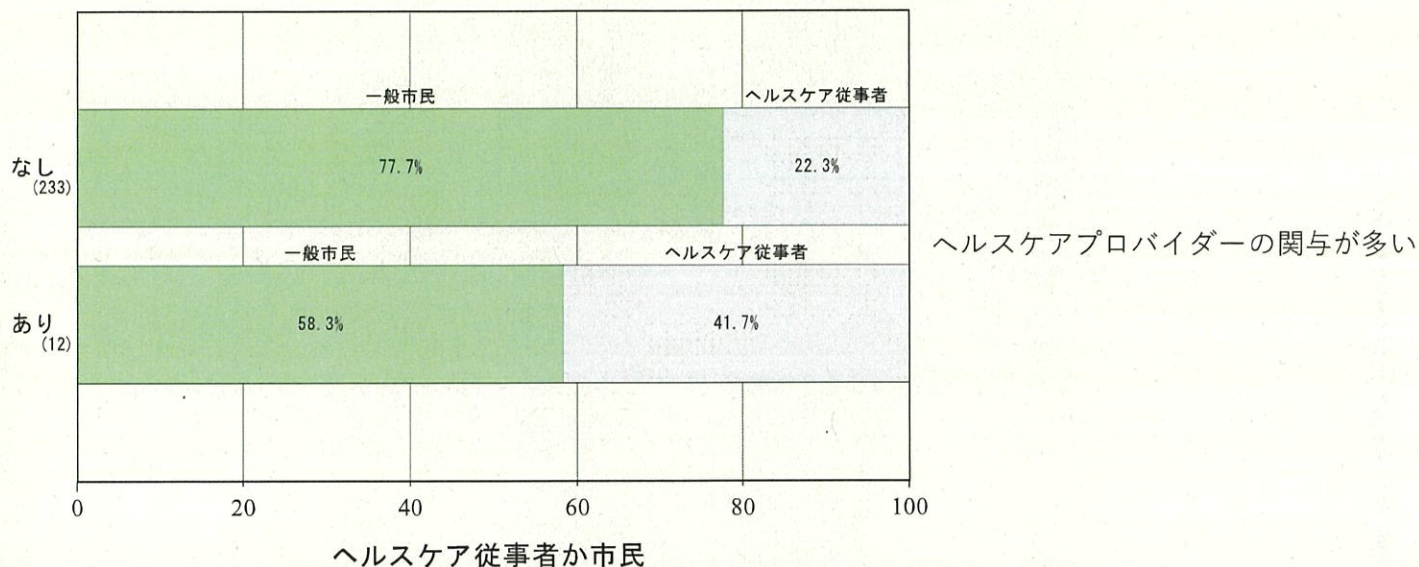
Median 43.0 (IQR 23.0-56.3)

Median 37.5 (IQR 30.0-63.0)

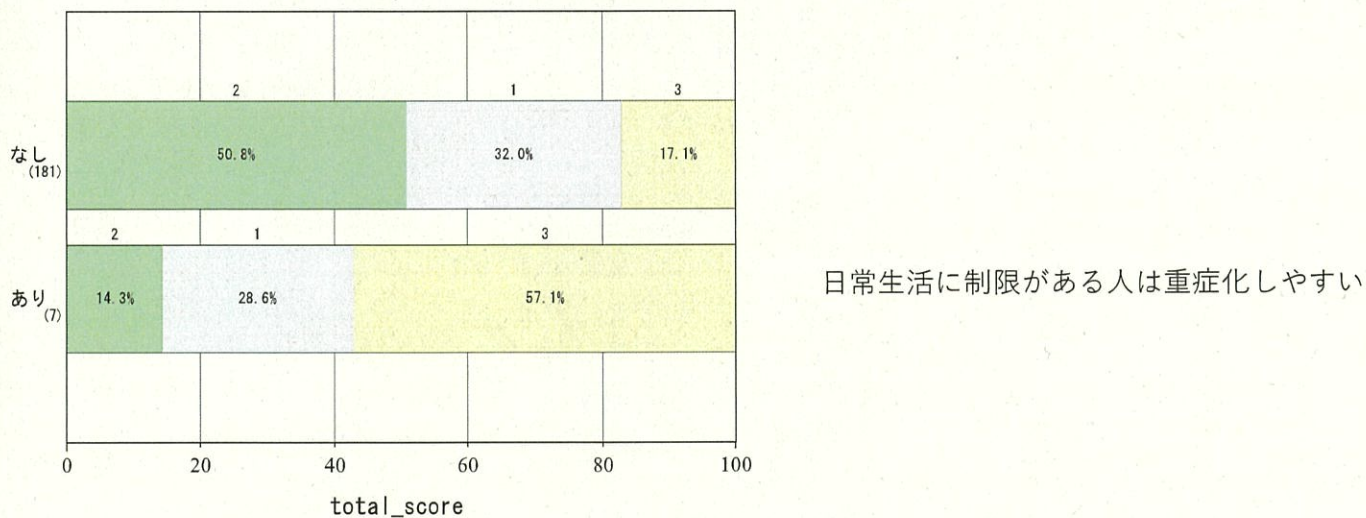
日常生活に制限なし VS あり
 ⇒ mRS0-2: 233例 vs mRS3-5 : 12例



日常生活に制限なし VS あり
 ⇒ mRS0-2: 233例 vs mRS3-5: 12例



日常生活に
 制限なし (181例) VS あり (7例) と
 熱中症重症度 (JAAM 1 - 3) :
 1 軽症 2 中等症 3 重症



まとめ：身体障がい者の熱中症

- 一定数存在する：日常生活に支障のある方は20人に1人程度
- 年齢は高め
- 日常生活での発症が多い（40-50%）
- ヘルスケア従事者（介助・介護者含む）による通報が多い
- 日常生活に制限がある人は重症化しやすい

⇒

今後への方策・課題

- 平時からお世話をしている人をターゲットに更なる啓発を
- 非労作性熱中症への対応強化
(屋内や安静時も油断できないことを発信)
- バイタルセンシング、モニタリング等見守り強化